

平成30年度広島大学マスタース研修旅行報告

—八女市・有田町の旅—

渡部和彦

平成30(2018)年度国内研修旅行は、福岡県八女市と佐賀県有田町を中心に訪れる旅でした(11月8日(木)～9日(金))。この企画は、広大マスタース独自に行われました。

研修場所は、本年度「講演会等」の企画に、東広島市の文化遺産や市内の景観を守ることをテーマにシンポジウム開催を考えようとの意見を参考に決めました。

景観条例等によって、町並み保全に努める先進地として、八女市を選びました。また、西条酒蔵通り一帯の景観は、酒造業における我が国を代表する歴史的遺産として、有田の窯業と共に、日本の20世紀遺産20選に選ばれました。このような経緯から、有田町を含む2か所を中心に、1泊2日のバスツアーを企画しました。

広大マスタース会員、同友の会、健康づくりウオーキング友の会、酒造組合関係者、市職員等を含め、総勢18名の旅行となりました。

いずれの訪問地でも、町並みの景観保護とその活用に、行政と住民が多大なる努力を払われた歴史的経過をスライドで丁寧に解説していただきました。深く感謝申し上げます。歴史的建造物の改築などで整備された町並みをゆっくりと、自由に散策することが出来、参考となる多くの事柄を学べる機会となりました。

さて、嬉野温泉では、滑らかな湯と懇親会を楽しみました。呼子の活イカ料理を堪能し、名護屋城跡の見学更に唐津神社、曳山展示場等の訪問など、充実した内容の研修旅行を終え、参加者全員、元気に帰りました、末筆ながら、ご協力いただいた(株)日本トラベルサービス様に感謝いたします。



有田焼の磁器原料の採石場(泉山磁石場)にて(2,018・11・9)

